

環境影響評価の方法に対する見解

(1) 環境影響評価の項目

① 環境影響要因の細区分の抽出

本事業の実施に伴う一連の諸行為等のうち、環境影響要因としては、「工事」、「存在」及び「供用」が考えられる。

環境影響要因の細区分の抽出結果は、表 1-1 に示すとおりである。

表 1-1 環境影響要因の抽出結果

環境影響要因	環境影響要因の細区分
工 事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設機械の稼働 ・ 工事用車両の走行 ・ 工事の影響
存 在	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑の回復育成 ・ 建築物等の存在
供 用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の供用 ・ 冷暖房施設等の稼働 ・ 駐車場の利用 ・ 施設関連車両の走行 ・ 歩行者の往来

② 環境要素の細区分の抽出

吹田市環境影響評価技術指針（以下「技術指針」という。）に示された環境要素のうち、前項で抽出した環境影響要因により影響を受けると考えられ、予測・評価を行う必要があると考えられる環境要素を抽出した結果は、表 1-2 に示すとおりである。

③ 調査・予測項目から除外した環境要素及びその理由

技術指針において、「運動・レジャー施設の建設」により影響をもたらす可能性のある事項として例示された環境要素の内、本事業においては影響はほとんど無いと考えられることから調査・予測項目から除外した環境要素及びその理由は、以下の通りである。

- ・ 水質汚濁：施設からの排水については、すべて公共下水道へ放流する計画であること、工事中の濁水等については周辺への流出を防止し、適切な処理をした後公共下水道へ放流する計画であることから、影響はないと考えられる。
- ・ 地形、地質：事業計画地は造成済みのほぼ平坦な地形であり、大規模な造成工事も行なわないことから、影響はないと考えられる。

○見解：（1）①～③は妥当である。

表 1-2 環境影響評価項目選定表

目標	分野	環境要素	環境影響要因			工事		存在	供用				
			建設機械の稼働	工事用車両の走行	工事の影響	緑の回復育成	建築物等の存在	施設の供用	冷暖房施設等の稼働	駐車場の利用	施設関連車両の走行	歩行者の往来	
エネルギーを適正に利用できる低炭素社会への転換	地球温暖化	温室効果ガス、エネルギー						○	○		○		
資源を有効に利用する社会づくり	廃棄物等	一般廃棄物						○				○	
		産業廃棄物			○			○					
		建設発生土			○								
		フロン類			○								
健康で安全な生活環境の保全	大気・熱	大気汚染	○	○							○	○	
		悪臭			○			○					
		ヒートアイランド現象				○	○		○			○	
	水	水質汚濁	公共用水域			×							
			地下水			×							
			底質汚染										
	土	土壌汚染			○								
		地形、地質	土砂流出、崩壊			×							
			斜面安定			×							
	地盤	地下水位											
		地盤沈下、変状											
騒音・振動等	騒音		○	○				○	○	○	○	○	
	振動		○	○				○			○		
	低周波音							○	○				
人と自然とが共生する良好な環境の確保	人と自然	動植物、生態系			○	○	○	○					
		緑化（緑の質、緑の量）				○							
		人と自然とのふれあいの場			○	○							
快適な都市環境の創造	建造物の影響	景観				○	○						
		日照障害					○						
		テレビ受信障害					○						
		風害					○						
	文化遺産	文化遺産（有形・無形・複合）			○								
	安全	火災、爆発、化学物質の漏洩等						○					
	地域社会	コミュニティ			○								
		交通混雑、交通安全		○							○	○	○

注：「○」は影響があると考えられる項目、「×」は「運動・レジャー施設の建設」において、標準的な項目として例示されている項目の内、本事業では影響はないと考えられる項目。

(2) 調査、予測及び評価の方法

① 調査の時期及び方法並びに予測の方法及びその時点

「(1) 環境影響評価の項目」で選定した環境要素についての、調査の方法及びその時期並びに予測の方法及びその時点は表 1-3 に、現地調査の地点及び範囲は図 7-1 に示すとおりである。

表 1-3(1) 現況調査、予測の手法及び評価の方法 (温室効果ガス・エネルギー)

	調査項目	調査地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	温室効果ガス・エネルギーの状況	事業計画地周辺	至近年	既存資料の収集・整理
		事業計画地内 (既存施設)	至近年	既存施設の資料収集・整理
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	施設の供用及び冷暖房施設等の稼働による影響 予測対象項目 ・温室効果ガス (二酸化炭素) の排出量及び削減量 ・エネルギー使用量及び削減量	事業計画地	供用後	原単位及び設備計画等に基づき予測。
	施設関連車両の走行による影響 予測対象項目 ・温室効果ガス (二酸化炭素) の排出量及び削減量	事業計画地周辺	供用後	原単位及び交通計画に基づき予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・温室効果ガスの排出量が可能な限り低減されていること。 			

○見解：

ア 現況調査

太陽光発電の設置等の地球環境対策の実施状況等の類似事例を調査すること。

イ 予測の手法

妥当である。

ウ 評価の方法

計画で予定している環境取組内容を実施しなかった場合と予測の結果を比較することで、可能な限り定量的な評価を行うこと。

表 1-3(2) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（廃棄物等）

現況調査	調査項目	調査範囲	調査時期・頻度	調査方法
	廃棄物等の状況		事業計画地周辺	至近年
		事業計画地内 (既存施設)	至近年	既存施設の資料収集・整理
予測	予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法
	施設の供用により発生する廃棄物の影響 ・一般廃棄物 ・産業廃棄物	事業計画地内	供用時	現況調査結果と事業計画等から廃棄物発生量及び排出量を推定。
	歩行者の往来により発生する廃棄物の影響 ・一般廃棄物		供用時	類似事例、事業計画等をもとに定性的に予測。
	建築工事等の実施により発生する建設副産物による影響 ・産業廃棄物 ・建設発生土		工事中	事業計画、既存資料等をもとに建設副産物発生量及び排出量を推定。
	建築工事等の実施により発生するフロン類による影響		工事中	類似事例、事業計画等をもとに定性的に予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・廃棄物等の最終処分量が、発生抑制、再利用等により可能な限り低減されていること。 ・廃棄物・発生土が適正に処理されること。 ・地域における廃棄物の処理に支障をきたさないこと。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(3) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（大気汚染）

	調査項目	調査地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	大気質・気象の状況 ・窒素酸化物（一酸化窒素、 二酸化窒素） ・浮遊粒子状物質 ・気象（風向・風速）	事業計画地周辺 の一般環境大気 測定局	至近 5 年間	既存資料の収集・整理
		吹田市北工場建 替地点	平成 16 年	
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	駐車場利用車両の排出ガスによる影響 予測対象項目 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 予測値 ・年平均値 ・日平均値の年間 98% 値または 2% 除外値	事業計画地周辺	供用後	大気拡散モデルによる数値計算により、各物質の寄与濃度を予測。また、寄与濃度と現況の環境濃度から、将来の環境濃度を予測。
	施設関連車両の排出ガスによる影響 予測対象項目 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 予測値 ・年平均値 ・日平均値の年間 98% 値または 2% 除外値	施設関連車両主要 走行ルート沿道 4 断面	供用後	大気拡散モデルによる数値計算により、各物質の寄与濃度を予測。また、寄与濃度と現況の環境濃度から、将来の環境濃度を予測。
	建設機械の排出ガスによる影響 予測対象項目 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 予測値 ・1 時間値 ・年平均値 ・日平均値の年間 98% 値または 2% 除外値	事業計画地周辺	工事最盛期	大気拡散モデルによる数値計算により、各物質の寄与濃度を予測。また、寄与濃度と現況の環境濃度から、将来の環境濃度を予測。
	工事用車両の排出ガスによる影響 予測対象項目 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質 予測値 ・1 時間値 ・年平均値 ・日平均値の年間 98% 値または 2% 除外値	工事用車両主要 走行ルート沿道 4 断面	工事最盛期	大気拡散モデルによる数値計算により、各物質の寄与濃度を予測。また、寄与濃度と現況の環境濃度から、将来の環境濃度を予測。

評 価	評価の方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・環境基本法により設定されている環境基準の達成及び維持に支障をきたさないこと。 ・吹田市環境基本計画に設定されている目標値の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(4) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（悪臭）

現 況 調 査	調査項目	調査範囲	調査時期・頻度	調査方法
	悪臭の状況		事業計画地周辺	至近年
		事業計画地内 (既存施設)	至近年	既存施設の資料収集・整理
予 測	予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法
	施設の供用により発生する悪臭の影響	事業計画地周辺	供用時	現況調査結果、類似事例及び事業計画等から定性的に予測。
建築工事等の実施により発生する悪臭の影響	工事中		現況調査結果、類似事例及び事業計画等から定性的に予測。	
評 価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・吹田市環境基本計画に設定されている目標値の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(5) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（ヒートアイランド現象）

現況調査	調査項目	調査地点	調査時期・頻度	調査方法
	土地被覆等の状況	事業計画地及び周辺	至近年	既存資料の収集・整理
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	土地利用状況の変化及び施設の供用による影響 予測対象項目 ・土地被覆の変化 ・人工排熱の変化	事業計画地	供用後	土地利用計画、緑化計画及び施設計画等に基づき予測。
	施設関連車両の走行による影響 予測対象項目 ・人工排熱の変化	事業計画地周辺	供用後	原単位及び交通計画に基づき予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・人工排熱の増加が可能な限り低減されていること。 			

○見解：

ア 現況調査

事業計画地周辺のヒートアイランド現象の状況について調査すること。

イ 予測の手法

妥当である。

ウ 評価の方法

計画で予定している環境取組内容を実施しなかった場合と予測の結果を比較することで、可能な限り定量的な評価を行うこと。

表 1-3(6) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（土壌汚染）

現況調査	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
	地歴等の状況	事業計画地	適宜	既存資料の収集・整理及び聞き取り調査
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	掘削工事の実施が土壌汚染に及ぼす影響	事業計画地及び周辺	工事中	事業計画（工事計画等）及び現況調査結果をもとに予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・環境基本法により設定されている環境基準の達成及び維持に支障をきたさないこと。 ・吹田市環境基本計画に設定されている目標値の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(7) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（騒音）

	調査項目	調査地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	一般環境騒音 騒音レベル	事業計画地周辺 2 地点	平日・休日 各 1 日 24 時間連続	JIS 等に定める測定方法に基づき調査。
	道路交通騒音 騒音レベル	関連車両主要 走行ルート沿道 4 断面	平日・休日 各 1 日 24 時間連続	同上
	交通量 ・時間交通量 方向別、3 車種分類 (大型、小型、 動力付き 2 輪車)			ハンドカウンターにより 目視計測。
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	施設の供用、冷暖房施設等の稼働及び駐車場利用車両による影響 ・騒音レベル	事業計画地周辺	供用後	距離減衰式等により、到達騒音レベルを予測。
	施設関連車両の走行による影響 ・騒音レベル	施設関連車両主要走行ルート沿道 4 断面	供用後	日本音響学会式等による数値計算により、騒音レベルを予測。
	歩行者の往来による影響	事業計画地周辺	供用後	類似事例、事業計画等をもとに定性的に予測。
	建設機械の稼働による影響 ・騒音レベル	事業計画地周辺	工事最盛期	距離減衰式等により、到達騒音レベルを予測。
	工事用車両の走行による影響 ・騒音レベル	工事用車両主要走行ルート沿道 4 断面	工事最盛期	日本音響学会式等による数値計算により、騒音レベルを予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・環境基本法により設定されている環境基準の達成及び維持に支障をきたさないこと。 ・吹田市環境基本計画に設定されている目標値の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：

ア 現況調査

調査時期・頻度で休日に行楽シーズンなどの特異日も追加で調査すること。

イ 予測の手法

- ・建設機械の稼働による影響は、日本音響学会 ASJ-CN モデルによる数値計算により、騒音レベルを予測すること。
- ・施設の供用の騒音レベルの予測において、前提条件の設定の際に、類似施設における観客の歓声に起因する騒音レベルを把握すること。

ウ 評価の方法

妥当である。

表 1-3(8) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（振動）

	調査項目	調査地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	一般環境振動 振動レベル	事業計画地周辺 2 地点	平日・休日 各 1 日 24 時間連続	JIS 等に定める測定方法に基づき調査。
	道路交通振動 振動レベル 地盤卓越振動数	関連車両主要 走行ルート沿道 4 断面	平日・休日 各 1 日 24 時間連続	振動レベル 同上 地盤卓越振動数 大型車走行時の振動 の 1/30CT. BAND 周波 数分析により求め る。
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	施設の供用による影響	事業計画地周辺	供用後	類似事例、事業計画等 をもとに定性的に予測。
	施設関連車両の走行による影響 ・振動レベル	施設関連車両主要 走行ルート沿道 4 断面	供用後	建設省土木研究所提案 式等による数値計算に より振動レベルを予測
	建設機械の稼働による影響 ・振動レベル	事業計画地周辺	工事最盛期	距離減衰式等により、 到達振動レベルを予測。
	工事用車両の走行による影響 ・振動レベル	工事用車両主要 走行ルート沿道 4 断面	工事最盛期	建設省土木研究所提案 式等による数値計算に より振動レベルを予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・吹田市環境基本計画に設定されている目標値の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：

ア 現況調査

妥当である。

イ 予測の手法

施設の供用による影響の予測において、前提条件の設定の際に、類似施設における観客の応援（踏み鳴らし等）に起因する振動レベルを把握すること。

ウ 評価の方法

妥当である。

表 1-3(9) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（低周波音）

現況調査	調査項目	調査地点	調査時期・頻度	調査方法
	一般環境低周波音 ・低周波音レベル	事業計画地周辺 2地点	平日・休日 各1日 4回/日	低周波音の測定方法に関するマニュアルに準拠し調査。
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	施設の供用、冷暖房施設等の稼働による影響 ・低周波音レベル	事業計画地周辺	供用後	距離減衰式等により、到達音圧レベルを予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・吹田市環境基本計画に設定されている目標値の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(10) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（動植物：動物）

	調査項目	調査範囲	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	哺乳類	事業計画地及び周辺	1回（春～初夏）	現地調査 フィールドサイン調査
	鳥類		6回 （繁殖期4回、越冬期2回）	現地調査 ラインセンサス ポイントセンサス
	は虫類・両生類		1回（春～初夏）	現地調査 目視観察
	昆虫類		2回（春・夏）	現地調査 任意採集
	予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法
予測	土地利用計画の変更等による影響 ・動物相の変化の程度 ・貴重な動物の消滅の有無	事業計画地及び周辺	工事中及び供用後	現況調査結果と土地利用計画、緑化計画、植物予測結果等から定性的に予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・貴重な動植物の生息・生育環境を可能な限り保全すること。 ・周辺地域における動植物に著しい影響を及ぼさないよう配慮されていること。 ・吹田市みどりの基本計画で設定されている計画の目標の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：

ア 現況調査

妥当である。

イ 予測の手法

妥当である

ウ 評価の方法

妥当である。

表 1-3(11) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（動植物：植物）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	植物相	事業計画地及び周辺	適宜（春～夏）	現地調査 目視観察・採取
	植生 現存植生	事業計画地及び周辺 （15地点程度）	適宜（春～夏）	現地調査 植物社会学的植生調査法に準拠し、現存植生図を作成。
	予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法
予測	土地利用計画の変更等による影響 ・植物相・植生の変化の程度 ・貴重な植物の消滅の有無	事業計画地及び周辺	工事中及び供用後	現況調査結果と土地利用計画、緑化計画等から定性的に予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・貴重な動植物の生息・生育環境を可能な限り保全すること。 ・周辺地域における動植物に著しい影響を及ぼさないよう配慮されていること。 ・吹田市みどりの基本計画で設定されている計画の目標の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：

ア 現況調査

妥当である。

イ 予測の手法

妥当である。

ウ 評価の方法

妥当である。

表 1-3(12) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（動植物：生態系）

	調査項目	調査範囲	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位性・典型性・特殊性を有する生物種の生態及びその生育・生息状況 ・ 生育・生息環境の状況 ・ 種の多様性の状況等 	事業計画地及び周辺	適宜	動物・植物調査結果の整理・解析
	予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法
予測	土地利用計画の変更等による生態系の変化の程度	事業計画地及び周辺	工事中及び供用後	現況調査結果と土地利用計画、緑化計画、動物・植物予測結果等から定性的に予測。
	評価の方法			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・ 貴重な動植物の生息・生育環境を可能な限り保全すること。 ・ 周辺地域における動植物に著しい影響を及ぼさないよう配慮されていること。 ・ 吹田市みどりの基本計画で設定されている計画の目標の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：

ア 現況調査

妥当である。

イ 予測の手法

妥当である。

ウ 評価の方法

妥当である。

表 1-3(13) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（緑化）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	周辺地域の生育木 毎木調査	事業計画地及び 周辺 (5地点程度)	適宜(春～夏)	現地調査 樹高・胸高直径の計 測等
	緑被の状況	事業計画地及び 周辺	適宜	植物調査結果の整理・ 解析
	予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法
予測	土地利用計画の変更等による 影響 ・緑の質・量の変化の程度	事業計画地及び 周辺	供用後	現況調査結果と土地利 用計画、緑化計画等か ら定性的に予測。
	評価の方法			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・吹田市みどりの基本計画で設定されている計画の目標の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：

ア 現況調査

妥当である。

イ 予測の手法

妥当である。

ウ 評価の方法

周辺地域の植生と調和した緑化計画となっていることを加えること。

表 1-3(14) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（人と自然とのふれあいの場）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な人と自然とのふれあいの場の分布状況 ・ 主要な人と自然とのふれあいの場の利用状況 	事業計画地及び周辺	適宜	聞き取り調査及び現地踏査
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	土地利用計画の変更等による人と自然との触れ合いの場の変化の程度	事業計画地及び周辺	工事中及び供用後	現況調査結果と土地利用計画、緑化計画等から定性的に予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・ 人と自然との触れ合いの場を可能な限り保全すること。 ・ 吹田市みどりの基本計画で設定されている計画の目標の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(15) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（景観）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	地域の景観特性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観資源の状況 ・ 重要な視点の分布及び状況 	事業計画地周辺	適宜	既存資料調査及び現地踏査
	主要眺望地点からの事業計画地方向の景観	主要眺望地点（5地点程度）	適期 各1回	景観写真撮影
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	建築物等の出現による都市景観への影響	主要眺望地点（5地点程度）	完成時	景観モニタージュの作成により定性的に予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・ 吹田市景観まちづくり計画で設定されている基本目標の達成及び維持に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(16) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（日照障害）

調査項目	調査範囲	調査時期・頻度	調査方法	
現況調査	建築物等の分布状況	事業計画地周辺	適宜	既存資料の収集・整理、現地踏査
予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法	
予測	建築物の出現により発生する日影の影響 ・時刻別日影図 ・等時間日影図（冬至日等）	事業計画地周辺	完成時 （冬至日等）	幾何学的計算式により予測。
評価の方法				
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・地域の日照が著しく障害されるおそれがないこと。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(17) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（テレビ受信障害）

調査項目	調査範囲	調査時期・頻度	調査方法	
現況調査	テレビジョン電波受信状況 ・アンテナ端子電圧 ・受信画質等 建築物等の分布状況 ・住居等の位置、形状、階層等	事業計画地周辺	適宜	テレビジョン受信状況は電波障害測定車による現地調査 ・建築物等の分布状況は現地踏査等
予測項目	予測範囲	予測時点	予測方法	
予測	建築物の出現がテレビジョン電波受信状況に及ぼす影響 ・受信障害発生範囲	事業計画地周辺	完成時	実様式により予測。
評価の方法				
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・地域住民のテレビ電波の受信に障害を及ぼすおそれがないこと。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(18) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（風害）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	風環境の状況 ・風向、風速	事業計画地周辺の一般環境大気測定局	至近 5 年間	既存資料の収集・整理
		吹田市北工場建替地点	平成 16 年	
	地形の状況 事業計画地周辺における建物の立地状況等	事業計画地周辺	適 宜	既存資料の収集・整理、現地踏査
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	建築物の設置に伴う風速の変化の程度 ・風速増加域	事業計画地周辺	完成時	風速増加域算定式による風速増加域図の作成により予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること。 ・地域住民の日常生活に支障をきたさないよう努めること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(19) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（文化遺産）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	文化財、埋蔵文化財包蔵地等の状況	事業計画地及び周辺	適 宜	既存資料の収集・整理
	埋蔵文化財の状況	事業計画地	適 宜	吹田市教育委員会と協議の上実施。
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	掘削工事の実施が文化財に及ぼす影響	事業計画地及び周辺	工事中	事業計画（工事計画等）及び現況調査結果をもとに予測。
評価	評価の方法			
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財への影響を最小限にとどめるよう、配慮されていること。 			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3 (20) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（安全）

現況調査	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
	過去の災害等の状況	事業計画地及び周辺	適宜	既存資料の収集・整理
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	施設の供用による影響	事業計画地周辺	供用後	類似事例、事業計画等をもとに定性的に予測。
評価	評価の方法			
	・安全が確保されるよう、配慮されていること。			

○見解：

ア 現況調査

吹田市の防災に係る計画及び避難所等の指定状況を把握すること。

イ 予測の手法

妥当である。

ウ 評価の方法

地域社会の災害時における安全確保について配慮されていること。

表 1-3 (21) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（コミュニティ）

現況調査	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
	コミュニティ施設の状況	事業計画地周辺	適宜	既存資料調査及び現地踏査
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	工事の実施によるコミュニティ施設への影響	事業計画地周辺	工事中	事業計画等をもとに定性的に予測。
評価	評価の方法			
	・周辺地域の交通の状況に著しい影響を及ぼさないこと。 ・コミュニティ施設及びコミュニティ施設の持つ機能に著しい支障をきたさないよう努めること。			

○見解：現況調査、予測の手法及び評価の方法は妥当である。

表 1-3(22) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（交通混雑）

	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
現況調査	交通量 時間交通量 (方向別、3車種区分)	事業計画地周辺 7交差点	平日・休日 各1回 7時～22時	ハンドカウンターにより目視計測。
	信号現示			ストップウォッチにより計測。
	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
予測	施設関連車両の走行による影響 ・交差点需要率等	施設関係車両主要走行ルート沿道 7交差点	供用後	現況調査結果と事業計画等から交差点需要率等を予測。
	工事用車両の走行による影響 ・交差点需要率等	工事用車両主要走行ルート沿道 6交差点	工事最盛期	現況調査結果と工事計画等から交差点需要率等を予測。
評価	評価の方法			
	・周辺地域の交通の状況に著しい影響を及ぼさないこと。			

○見解：

ア 現況調査

- ・(提案書 p3-8)協議・連携を想定している公共交通機関の輸送能力及び乗車率等を調査すること。
- ・(提案書 p3-8)駐車台数が不足することはないとしているから、周辺駐車場の稼働状況等を調査すること。

イ・ウ 予測の手法、評価の方法

交通渋滞（渋滞長）の状況を調査し、駐車場への入出庫に起因する交通渋滞の影響も踏まえて渋滞長及び通過所要時間を予測し、評価すること。

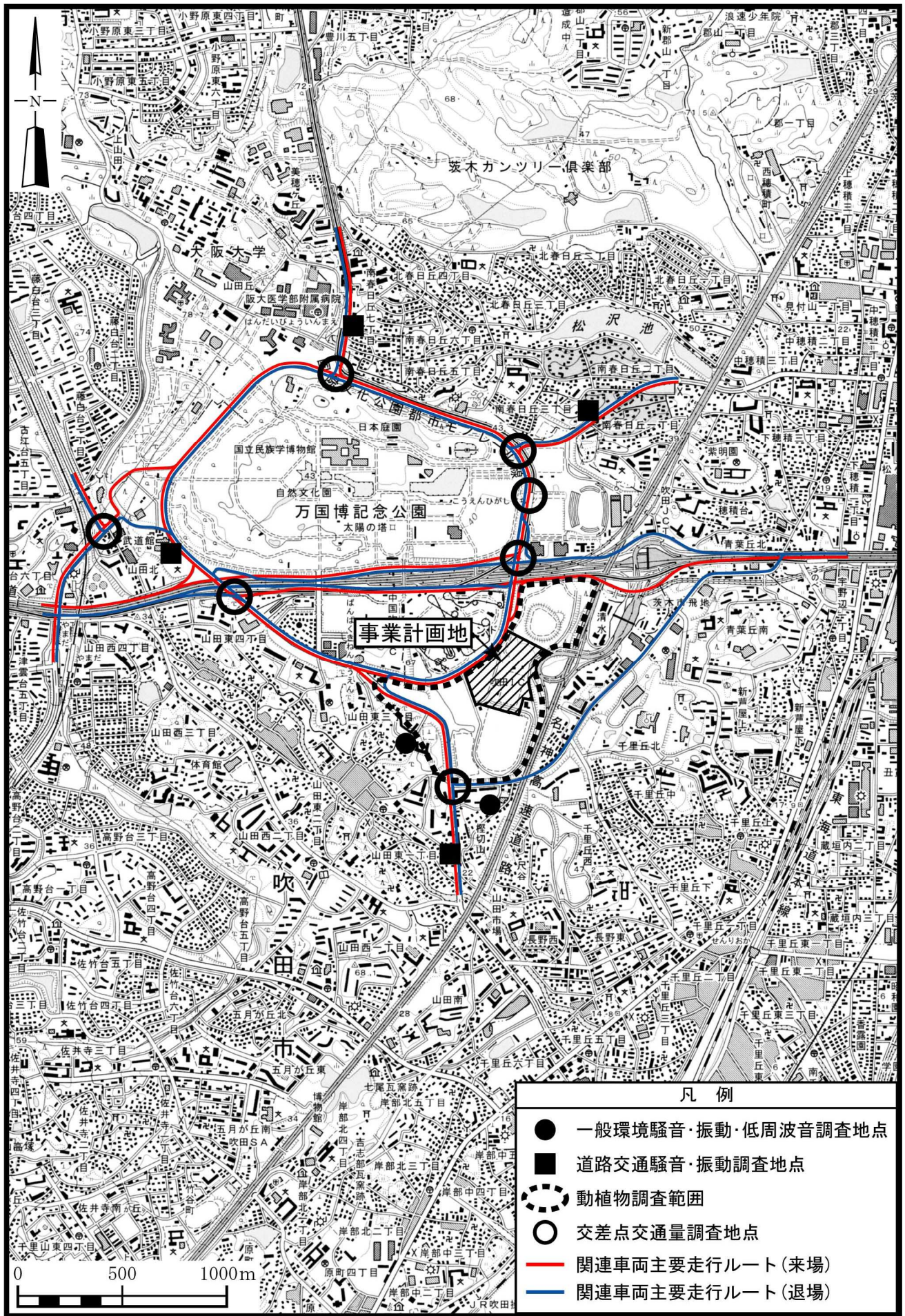
表 1-3(23) 現況調査、予測の手法及び評価の方法（交通安全）

現況調査	調査項目	調査範囲・地点	調査時期・頻度	調査方法
	交通安全施設等の状況	事業計画地周辺	適宜	既存資料調査及び現地踏査
予測	予測項目	予測範囲・地点	予測時点	予測方法
	施設関連車両及び工事用車両の走行による影響	事業計画地周辺	工事中及び供用後	関連車両の通行ルート、交通量及び周辺の歩行経路等を考慮し、事業計画等を基に予測。
評価	評価の方法			
	・周辺地域の交通の状況に著しい影響を及ぼさないこと。			

○見解：

ア・イ・ウ 現況調査、予測の手法、評価の方法

供用後の歩行者の往来に起因する歩行者の交通安全の確保を追加し、試合終了後の観客の動線と、その混雑度予測、安全性評価に係る現況調査、予測及び評価を追加すること。



この地図は、国土地理院発行の「2万5千分の1 地形図 吹田」（平成20年）を使用したものである。

図1-1 現地調査地点・範囲図